



ロータリー：
変化をもたらす

Rotary International District 2800 2017-2018

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER vol.2

地区目標 美しい心、ロータリアンの矜持
～修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～

ガバナー月信 第2号

CONTENTS

- ガバナーメッセージ
- 米山奨学セミナー報告
- 米山奨学学生レター
米山奨学委員レポート
- 会員増強コーナー
社会奉仕コーナー
- 国際奉仕コーナー
第1回インターアクト連絡協
議会報告
- 青少年交換学生帰国報告
青少年交換・学友コーナー
- 新入会員紹介
ロータリー情報のコーナー
- 地区大会のご案内
- 8月のスケジュール



アンデルセンの皆様
ロータリークラブの皆様
いつもありがとうございます。
本日の読み語り
よろしくお願いたします。

8



国際ロータリー第2800地区
2017▶2018年度

- ◇ガバナー／鈴木一作
- ◇R.I.会長／イアン H.S. ライズリー
- ◇R.I.理事／斎藤直美、石黒慶一



親愛なる会長・幹事・ロータリアンの皆様へ

2017-18年度 国際ロータリー第2800地区
ガバナー 鈴木 一作

RIテーマ

ロータリー：変化をもたらす
(ROTARY: MAKING A DIFFERENCE)

地区目標

美しい心、ロータリアンの矜持
～修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～

◆会員増強・新クラブ結成推進月間

8月は、会員増強・新クラブ結成推進月間 (Membership and New Club Development Month)です。以前は会員増強拡大月間 (Membership and Extension Month) と呼ばれていましたが、2015年1月のRI理事会決定により変更になりました。これに関連して、2016年4月の規定審議会で大きな改定があり、クラブの裁量権が一気に拡大されました。例えば、今までロータリーの常識であった会員身分、毎週一回の定期例会への出席などが、クラブ細則の決定で変更できるようになったのです。

現在、ロータリー会員の70%以上が50歳以上です。会員平均年齢が60代半ばを超えているクラブも少なくありません。RIは、「世界人口の約半分が30歳未満である現状と大きくかけ離れている」ことを危惧し、「ロータリー発展のためには、例会に関する規定を和らげ、若い世代とデジタル志向の人々のニーズに応えることが重要」と指摘しています。その上で、クラブ会員数の増加（特に若い世代と女性）と新クラブの結成（若い世代が主体）を目指しています。2800地区は、人口当たりのロータリアンの数は多いのですが、会員増加が喫緊の課題とも言えるクラブが少なくないのも特徴です。

◆クラブの活力

「数は力である」とは、まさにその通りでしょう。実際、新しい会員を増強しない（できない）ロータリークラブは、その活力を失っていきます。例会やクラブ事業はマンネリ化し、新しい発想や計画は敬遠され、高齢や病気で退会者が出ればクラブの予算や事業も縮小していくのです。何よりも恐れるべきは、若い世代から魅力的な組織とは思われなくなっていくことです。そうなってしまったら、若い世代からの入会はおぼつかなくなるからです。

◆青少年交換学生の数を倍増？

青少年交換事業を例にとって考えてみましょう。本年7月の全国青少年交換委員長会議（東京）では、執行部から「全国の交換学生を倍増しよう」と威勢のいい掛け声が上がりました。しかし、そのためには、地区でもクラブでも今以上に青少年交換事業の予算を工面しなければなりません。また、小中学生や高校生を子息に持つ若いクラブ会員が増えないと、受け入れ留学生のホームステイ先にも困ります。留学生にしても、同世代の家族がいるホームステイの方が良いでしょう。一般市民にホームステイをお願いする方法もあるでしょうが、それは「ロータリー青少年交換事業の本来の主旨に反するのでは？」と疑問視するロータリアンもいるはずです。要するに、若い世代の会員が新たに次々と入会してこない、青少年交換学生の数は倍増どころか、維持すら難しくなるのです。

◆10年後のクラブの姿は？

本年1月の国際協議会では、「今から10年後、あなたのクラブはどうなっていますか？（“地域の元有力者から成る老人クラブ”などと揶揄されるような存在になってしまう可能性はありませんか？）」というテーマで、話し合いが持たれました。皆さんのクラブでは、どうでしょうか？ 現会員全員の年齢が10歳増えた10年後のクラブの姿を想像してみてください。クラブの活力を保つためには、その10年間に、どの世代に何人の新会員が入会していればよいでしょう？ クラブの規模にもよるでしょうが、少なくとも10人以上（つまり毎年1人以上）、できれば入会年齢が30代から50代の新会員が望ましいのではないのでしょうか。

◆クラブ運営の大切さ

では、どうすれば、若い世代の会員を増やすことができるのでしょうか？ クラブの規模や会員の年齢構成、地域の事情によっては、「例会日を減らす、若い会員の会費を減免する、入会金を免除する、職業分類を緩める」など、クラブ運営に柔軟性を持たせることが有効なクラブもあるでしょう。他地区では、「昼の例会を、朝または夕方に変更する」、「食事代を年会費に含めず、例会毎に徴収する」、「40歳未満の会員は、RI人頭分担金、地区賦課金、年間食事代のみを会費とする」などの工夫で、会員増強につなげたクラブもあります。もちろん、その決定に至るまでには、クラブ内で様々な葛藤や激論があったと聞いています。いずれにしても、クラブや地域の事情を勘案しながら、入会して欲しい年代の都合や気持ちに配慮したクラブ運営を検討していくことは必要だと思います。しかし、入会しやすいクラブ運営はもちろん大切ですが、もっ

と大切なのは「入会してよかった」と思われるクラブ運営ではないでしょうか？ なぜなら、せっかくの新入会員も、クラブに「魅力」を感じなければ退会していくからです。ここで留意して欲しいことは、「クラブの魅力」と「ロータリーの魅力」との違いです。

◆ロータリーの魅力

ロータリーで大切にされてきた「一業種一会員制、会員推薦による入会制、出席重視の毎週の定期例会、年毎の任務交代制、奉仕の実践」などの基本原則は、私は「巧妙に仕組まれた親睦・自己練磨の構造」だと思っています。すなわち、一業種一会員制で会員推薦による入会によって、競争関係にない多様な異業種で、かつ評判の良い人たちがクラブは構成されます。しかも、互いに直接交流する機会を毎週の例会が提供します。さらに毎年任務交代により、不得意な、または嫌な役回りを引き受けることで自らの資質や能力を磨くこととなります。もちろん、他の会員からの協力を仰がなくては、価値ある奉仕の実践には繋がりません。まさに忍耐と寛容、敬愛と感謝、喜びや感動を味わいながら、ロータリー特有の親睦と自己練磨が育てられていくのです。それは、Guy Gundakerが強調する「ロータリーは、立派なロータリアンを育てる」ことであり、同時に「ロータリーの魅力」の主たる1つだと私は思います。しかし、これとは別の次元で考えて欲しいのが、「クラブの魅力」です。



◆クラブの魅力

では、「クラブの魅力」とはなにか？ これについては、ぜひクラブ奉仕フォーラムや会員増強フォーラムなどで、「我がクラブの魅力と弱点」というテーマで話し合いをしていただければと思います。もちろん、クラブの伝統、会員構成、地域の事情などによって、それらの中身は違ってくるはずですが、ここでは、話し合いのヒントになりそうなこと（実は、私が国際協議会やガバナー会などで学んだこと）を幾つか紹介いたします。

「●楽しいだけがロータリーではない。しかし、楽しくなければロータリーではない。●心が洗われる会長挨拶は、充実した例会の第一歩。●無断欠席ゼロクラブ。●例会中の私語は、最も例会を台無しにする非礼行為。●大いに議論はすべきだが、決まったら会長を中心に一致団結。●R I 会長賞を目指すのは、クラブの大いなる活性化に繋がる。●「今日は参加して良かった」と誰もが思う会合と事業の準備に抜かりはないかを、毎月の理事会で確認し合う。●地区に委員を輩出することは、例会や事業のマンネリ化や低調さの防止に繋がる。●クラブや地区の将来を担うロータリーリーダーの育成と新陳代謝に努めている。●会員スピーチや話し合い（フォーラム）の場を多くとり、会員間の敬愛と友情を育むような例会に心がけている。●奉仕プロジェクトは、単なる寄付や寄贈が主体ではなく、ロータリアンの知恵と汗、情熱と感動を伴うものにする。●新会員の教育と親交（声かけ、ロータリー用語解説、メイクアップ同伴、2次会勧誘など）に積極的である。●奉仕プロジェクトの実際を積極的に広報するなどして、地域でのクラブ認知度を高める努力をしている。●クラブ広報のためのホームページやFacebookを適宜更新している。●クラブ会員が学校や地域で積極的に活動している（学校ボランティア、インターンシップ、民生委員、保護司、人権擁護委員など）。●R A C、I A C、交換留学生、米山奨学生などと、クラブとして積極的に関与している。」

◆会員の選択も大切

会員増強と言っても、やみくもに入会者を増やせばよいという意味ではありません。良質な会員こそが、クラブの魅力を向上させてくれるのです。ここでは伊藤巳規男 P G（大江 R C）の名言を紹介するだけで、見識あるロータリアンの皆様には十分でしょう。すなわち、「真のロータリアンになれる人に、入会してもらうことだ」一。

◆地区目標と R I テーマの大切さ

入会しやすい柔軟性のあるクラブ運営はもちろん大切ですが、もっと大切なのは「入会してよかった」と思われるクラブ運営です。今こそ我々は、「ロータリーの魅力」を再認識するとともに、「クラブの魅力」を磨き上げなくてはなりません。それは、地区目標「美しい心、ロータリアンの矜持 ~修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動~」を強く実感できるクラブ運営と言ってもよいでしょう。しかも、磨き上げたクラブの魅力を積極的に発信していくことは、R I 会長賞をとることに繋がり、会員増強に繋がり、クラブの活力増進にも繋がるのです。それは、ロータリアンに、クラブに、地域に、そして世界に、『変化』という『発展』をもたらすでしょう。まさに、今年度の R I テーマ「ロータリー：変化をもたらす」そのものです。

ガバナーの想い

ガバナーメッセージは、まだ慣れないせいに加えて資質のなさもあり、どうも偉そうな物言いになってしまうことを、実は心苦しく思っています。ガバナーの主要任務の1つは、クラブが「ロータリーの目的」を達成するために、クラブ・リーダーシップ・プラン（CLP）の柱である「奉仕プロジェクト、会員増強、ロータリー財団支援、リーダー育

成」について支援することです。ここで言う「支援」とは、具体的で有効な提案のことであり、それらを奨励し、意欲を喚起することだと私は思っています。それらを、クラブの事情や特性に応じて取捨選択しながら（＝クラブ自治権）大いに活かしていただければ、こんなに嬉しいことはありません。心情、ご理解ください。



米山奨学セミナー報告

2017年7月8日(土)
寒河江市 ホテルサンチェリー

米山奨学・学友委員会 委員長
大久保 章宏 (山形南RC)



今年度の地区米山セミナーは、米山記念奨学会に対する熱い思い入れを披露した鈴木一作ガバナー挨拶の後、特別講演として第2750地区初代学友会会長の金英奎さん(2011-12/横浜都築RC米山奨学生、上海在住)から、「日本の印象」と題してお話しをしていただきました。金さんは現在、株式会社環境管理センター経営企画室にお勤めで、東京と上海で活躍されています。ロータリーや米山記念奨学会をはじめとした多くの出会いで、自分の考え方、歩み方に大きな変化が生まれ、感謝、恩返しの心を持ち続けているそうです。彼の講演内容を、以下にご紹介いたします。

「私は、中国でドラえもん、一休さんを見て育った世代です。幼い頃、日本は礼儀正しい、清い、とても美しい国という印象でした。しかし、学校に入ってから、その印象は少しずつ変わりました。また、多くの戦争ドラマを見ているうちに、日本を疑う目で見えるようになりまして。ところが大学で、歴史の先生から日本の一般国民が平和のために大きく貢献したことを教わりました。そのおかげで、日本の一般国民と戦争時の軍人の姿を分けて考えるようになりました。そして大学卒業後、自分の目で日本の国を確かめたいという気持ちが高まり、日本への留学を決意したのです。

来日当初、私は週60時間のアルバイトをしなければ生活できなかったので、勉強する時間はほとんどありませんでし

た。そこで、限られた時間を最大限に利用するように工夫しました。移動時間中は必ず日本のラジオを聞き、授業では先生が嫌になるほど質問するなどして、日本語の勉強に必死に取り組みました。その結果、同級生60人の中で唯一学費免除になり、ロータリー米山奨学生に選ばれたのです。

私は、米山奨学生になったおかげで学業に集中することができ、数多くのロータリアンとの交流のおかげで感謝・恩返し、奉仕の気持ちが芽生えてきたように思います。そして、日本の印象を幼い頃の印象に戻すことができました。なにより、日本が大好きになりました。

今、各地区の米山学友と積極的に交流しています。ほぼ全ての米山学友は、ロータリーに感謝の気持ちを持っていて、様々な形で恩返しをしたい熱い思いを持っています。今後、ロータリーとのご縁を大切にしながら、自分の国をはじめ他の国にも、日本の良さを伝えるように一生懸命努力していきたいです。

ご清聴、ありがとうございました。」

続いてお話ししてくれた今年の米山奨学生たちも、「自国との文化の違いにとまどっているものの、志を高く持って勉学に励み、そして感謝、恩返しの気持ちを忘れない」という内容を異口同音に述べていました。最後に、山形学友会の高吉嬉新会長が挨拶され、自分の米山奨学生時代の経験、金英奎さん同様の感謝、恩返しの気持ち、奨学生らと共に歩んでいきたいという抱負について語ってくださいました。

米山記念奨学会は、日本全国のロータリアンからの寄付金を財源に、奨学金を支給し支援する民間最大の奨学財団です。日本独自の国際奉仕事業であり、ロータリアン全員が参加しています。絆を大切に、奨学生を支援し、見守り、成長を喜び、なにより共に成長するという人材育成事業です。さあ、皆様と共に奉仕活動をしましょう。



米山奨学生レター

vol.1

山形大学人文学部2年
アナル ガリド (モンゴル)



私は、昨年10月29日に山形北ロータリークラブが主催した「ヤマブキロードプロジェクト」に参加しました。このプロジェクトは、山形市街地と蔵王を結ぶ新たな市道沿い1kmにヤマブキを植樹して、新しい「ヤマブキロード」を作ることでした。これにより、従来のヤマブキ通りとの相乗効果も得られ、山形市民の憩いの場とする狙いでした。



プロジェクトは、クラブの皆さんが元気よく作業され、あっという間に終わりました。その後、皆さんと美味しいおそばを食べました。普段は例会でしかお会いできない皆さんとさらに親しくなり、多くのことを教えていただき、本当に良かったです。ロータリアンが地域に貢献するために一生懸命頑張っている姿を見て、私も頑張らなければという気持ちが強くなりました。これからも、ロータリー活動に積極的に参加していきたいと思えます。

米山奨学委員レポート



米山奨学・学友委員会 委員
西川 富美子 (鶴岡RC)

米山奨学委員として、2年が過ぎました。私のクラブは、これまでも米山奨学生の世話クラブをしてきました。私が委員を拝命した時は中国からの王漠非さん、今年はアフリカのベナンから来たゴンルドブ・マリエッタ・ニョンブアンラさんをお世話しています。

彼ら奨学生は、以前はアルバイトや仕送りで生計を立てただけに、奨学金の助成で学業に専念できるようになったことをとても感謝しています。クラブとの交流にしても、奨学金が支給される第一例会はもちろん、移動例会や委員会セミナーにも出席され、真面目で勤勉な人柄に感心しています。日本での体験を忘れず、母国と日本との懸け橋となって、国際社会で大いに活躍されることを期待しております。

私自身、米山奨学委員になって米山梅吉氏のお人柄をはじめ、米山奨学事業は彼を偲んで古沢丈作氏が設立したこと、日本に在留しながら勉学研究を志す外国人留学生に奨学金を支給していること、その財源は日本全国のロータリアンの寄付金であること、クラブとしても人的交流支援をしていること、国内では民間最大の国際奨学事業であることなどを知り、ロータリーへの思いや取り組みにも多大な影響がありました。

鈴木一作ガバナーは、次代を担う若者の育成に対する思い入れが特に強い方です。私も、2800地区が一人でも多くの奨学生をお受けできるよう、協力を惜しまないつもりです。

ガバナーの想い

ロータリー歴24年目の私ですが、クラブで初めて委員長を拝命したのが米山奨学委員会でした。クラブでの米山フォーラムでは、基調講演と資料の準備で、米山に関する書物を40～50冊は必死に読んで勉強したことを思い出します。おかげで、米山奨学会の歴史から制度、発展、問題点に至るまで、クラブで最もよく理解している一人だと自負していますし、何よりその主旨に強く共感・感動しています。

実は、米山奨学生を写真付きで所属、研究テーマ、出身国、世話クラブ等を含めてガバナー月信の第1号で紹介したのは、全国のガバナー月信でも当2800地区だけです。また、ロータリーの友7月号に全国のガバナー紹介記事が掲載されていますが、米山功労者は私が22回で断トツのトップです。ちなみに、米山奨学セミナーを今年度の最初の地区セミナーとして寒河江市で開催したのも、私のたつての要望でした。要するに、私の米山奨学会に対する思いは尋常ではないということです。地区でミスター米山の異名をとるのは松村澄男氏(天童RC)ですが、私もこれまで地区の米山奨学会に在籍していれば、“もう一人のミスター米山”と呼ばれていたかも知れません。

米山奨学会の歴史には、実は1915年の職業倫理訓(道徳律)から始まる古沢丈作氏の物語があります。セミナーではガバナー挨拶の中でも触れましたが、今月号の「ロータリー情報コーナー」のテーマにもしましたので、ご一読ください。

会員増強コーナー



会員増強委員会 委員長
坂部 登 (山形西RC)

8月は、会員増強・新クラブ結成推進月間です。ロータリーの活動をもっと多くの人に知ってもらうとともに、会員やクラブの日頃の活動を考えるよい機会となります。

まずは、元気なクラブづくりから

「入会してよかった」と思われるクラブとなるには、会員のニーズをしっかりと把握し、その期待に応えることが重要です。地域に貢献していると実感でき、仲間との友情を育むことのできるクラブとなるには、どうすればよいでしょうか。それには、

- ①クラブの現状評価を行い、クラブの強みと問題点を確認しましょう。
- ②会員満足度アンケート調査で、会員のニーズを確認しましょう。

会員がいてこそクラブが成り立ち、様々な活動ができるのです。会員の声に常に耳を傾け、変化を取り入れ、会員全員の協力を得ながら理想のクラブづくりを目指すことが重要です。会員満足度調査の目的は、クラブについて会員が満足している点、不満に感じている点は何かを知ることです。そして、会員が満足している点を強化し、不満な点を改善するための行動計画を立てましょう。

「元気なクラブづくりのために：クラブリーダーシッププラン（日本版）」には、会員満足度アンケートのマニュアルがあります。設問は、各自のクラブに合った内容に修正しながら実施するとよいでしょう。アンケートの集計は大変重要です。回答には、会員の色々な思いが込められています。しっかり分析しましょう。

また、この「元気なクラブづくりのために」は、新会員と現会員の積極的な参加を促して、元気なクラブを作ることへの応援するリソースでもあります。様々なヒントが紹介されていて、クラブで実現できるアイデアがきっと見つかると思います。どうぞ、ご活用ください。



社会奉仕コーナー



社会奉仕委員会 委員長
武山 茂 (天童東RC)

鈴木一作ガバナー年度のスタートにともない、社会奉仕委員会の活動は、各クラブで一斉に推進されていることと存じます。

価値ある社会奉仕事業のスムーズな実施を目指して、鈴木ガバナー年度の準備は新年早々から着々と行われてきました。そういう意味では、ガバナーエレクト事務所と地区事務所には、本当にご苦労をおかけしました。また、ロータリー財団委員会には、年度前の財団セミナーとPETSで「地区補助金を活用した社会奉仕事業の申請方法」を解りやすく説明していただきました。大変感謝申し上げます。

地区補助金活用の奉仕事業は、本年3月31日の締切にもかかわらず、30クラブより31事業の申請があり、減額も含めて30事業が承認されました。また、グローバル補助金を活用した国際奉仕事業の申請も1件あり、同じく31件目として承認されました。提出された事業の種類は次のようになります。

①地域社会の発展(一般の部)	12件
②地域社会の発展(ボランティア奉仕)	5件
③教育(一般の部)	7件
④教育(奨学金)	1件
⑤教育(ボランティア奉仕)	5件
⑥保険(疾病)等・その他	1件

内容については、月信7月号をご覧ください。また、詳細を知りたいクラブは、当社会奉仕委員会までご連絡ください。

次に、「地区災害等救援特別基金(東日本大震災等・復興支援特別委員会)」による復興支援等事業への資金援助ですが、1クラブの補助金上限30万円、企画書提出期限は本年5月10日でしたが、5クラブの申請があり、すべて承認されました。事業内容については、月信7月号に掲載されています。

昨年に引き続き、地区社会奉仕委員会の委員長を拝命しましたが、実は前年度の心残りがございます。それは、各クラブの心のこもった社会奉仕事業の内容を一部のロータリアンにしかフィードバックできなかったことです。今年度は、この社会奉仕コーナーも活用しながら、フィードバックに努めたく存じます。

1年間、よろしくお願い申し上げます。

国際奉仕コーナー



国際奉仕委員会 委員長
遠藤 隆一 (山形中央RC)

鈴木一作ガバナーのもと、国際ロータリー第2800地区の2017-18年度がスタートしました。

本年2月の地区チーム研修セミナーでは、鈴木ガバナー（当時はエレクト）は「国際奉仕委員会へ特に要望したいこと」として、「①地区内で成果を上げた国際奉仕プロジェクトを調査し、それらを各クラブへ周知しながら実践を促す。②ロータリー友情交換事業（Rotary Friendship Exchange）の周知に努め、奨励する。③グローバル補助金の活用について理解を得ながら、実現につなげる」ことなどを挙げられました。そして、是非ともRI会長賞の全クラブ受賞を目指し、その取り組み方についてクラブへ支援するようにとのご指示がありました。それを受けて、4月の地区研修・協議会では、具体的な実例を示しながら、同様の内容について各クラブリーダーと話し合いをしたところです。

国際奉仕委員会としても、今年度、グローバル補助金を活用した国際奉仕事業が承認されるなど、行動目標が具体的で明確な形になってきたことを嬉しく思うとともに、より一層の努力を重ねていきたいと考えております。

訃報

R.I.会長エレクトのサム F. オオリ氏 [カンパラRC (ウガンダ)] が、7月14日にお亡くなりになりました。ここに謹んで皆さまにお知らせいたします。



例会場変更のお知らせ

尾花沢RC

「レストラン徳良湖」

尾花沢市二藤袋1767-6

☎0237-23-2989

尾花沢中央RC

「割烹 みやこ」

尾花沢市上町一丁目8-1

☎0237-22-0117

第1回インターアクト連絡協議会 報告



インターアクト小委員会 委員長
高橋 章 (米沢RC)

第1回インターアクト連絡協議会を新旧委員合同で開催しました。詳細は以下の通りです。

- ① 6月4日に行われた2800地区インターアクト年次大会の報告。
- ② 8月7～9日に予定されているインターアクト地区外研修の報告と打ち合わせ。（今回は、トルコ大使館、ユヌス・エムレインスティトゥート東京、国際基督教大学内のロータリー平和センター、浅草寺などの訪問研修を予定しています）
- ③ インターアクトRI会長賞の取得について。（提唱クラブには、必須項目であるロータリーセントラルの提唱クラブ・団体リストで『Active』（正規に活動中）と表示されていることの再確認をお願いします）
- ④ 青少年交換留学生やロータリーアクトとの交流推進について。
- ⑤ インターアクトによる11月の地区大会でのパフォーマンスの内容と打ち合わせ。

鈴木一作ガバナーからは、地区外研修に向けてトルコの歴史、トルコと日本との深い繋がり、ロータリー平和センターなどについて、十分な事前学習をして欲しい旨の要請がありました。私自身、今回の研修参加者の中から未来のロータリー平和フェローが生まれたらどんなに素晴らしいだろうと、期待に胸を膨らませています。実り多い研修になるよう、しっかり準備いたします。

関係クラブの皆様におかれましては、次代を担う立派な若者を育成するために、今後ともインターアクトクラブが素晴らしい活動ができますよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



青少年交換学生 帰国報告



國井 修人 君

派遣地区・国名 4730・ブラジル
ホストR C名 Rotary club curzeiro do sul



皆さん、こんにちは。6月20日をもって、私の最初で最後の交換留学に終止符が打たれました。あっという間の11ヵ月、留学した者にしかできない経験をしました。二度と忘れない、そしてこれから生きていく上で絶対に役立つものと信じています。

今思えば、海外で1年間も暮らし、最後まで留学をやり遂げたのを、自分でもすごいと思っています。留学する前は、心配と不安しかありませんでした。知らない世界、未知の言語、見知らぬ人々など、様々な難関に立ち向かい、乗り越えなければなりません。場合によっては強制送還もあり得ると聞いていたので、余計に緊張しました。

そして昨年7月、生まれて初めて日本を飛び出し、ブラジルに到着。それは、地獄の3ヵ月の始まりでした。文化や食べ物など、慣れないことがたくさんありましたが、一番辛かったのはコミュニケーションでした。英語もポルトガル語もほとんど喋れない状態でしたから、ホストファミリーと良好な関係が作れず、部屋に引きこもる時間が長く続きました。自分からトライする気持ちもあったのですが、ホストファミリーの言っていることを理解できないと怒られたり放っておかれたりするので、「本当に3ヵ月も耐えられるのか。希望は出てくるのか」という心配と不安の中、地獄の期間を耐え抜きました。

しかし、その先には天国が待っていました。ホストファミリーの言っていることがなんとなく分かるようになり、会話も生まれたのです。ファミリーから「3ヵ月前とは全く違う。おめでとう！」と言われた時は、涙が出ました。恐怖の念しか抱いていなかったファミリーから誉められ、家族の一員として迎えられた「あの日の出来事」は一生忘れられません。まさに、自分の心の闇を照らしてくれた光のようでした。3ヵ月の間、辛くて泣いてしまうこともありました。早く帰りたいと思うこともありました。それでも、なんとか耐えて、希望の光を見つけたのです。この出来事のおかげで、私は最後まで留学生活を続けることができたのだと思います。

最後に、留学面でのサポートをしてくれた家族、2800

地区の青少年交換委員会や寒河江ロータリークラブの皆様、そして温かい心で私の面倒を見てくれたブラジルのホストファミリーに心から感謝します。これからは、こうした経験を糧にしながら、人生を精一杯楽しんで生きていこうと思います。本当にありがとうございました!!!



志田 峻平 君

派遣地区・国名 台湾・斗南
ホストR C名 斗南ロータリー



台湾から帰国しました。僕は、台湾に留学して本当によかったと思っています。台湾では、自分の短期的な目標が見つかりました。それは、台湾の大学で勉強することです。理由は、中国語をもっと勉強したいからです。そして、留学中にあまりできなかった台湾語と英語も勉強したいと思っています。

台湾は、親切でよい人ばかりでした。初めての海外ということで緊張して日本をあとにしましたが、台湾に着くと斗南ロータリーの皆さんが温かく迎えてくれたので、とても安心しました。また、最初の3ヵ月間はかなりつらいと聞いていましたが、斗南ロータリーには日本語が話せる人がいて、そんなにつらいと感じることはありませんでした。しかし、留学生同士の会話は英語だったので、英語の得意でない僕は、初めのうちは彼らとそんなに仲良くなれませんでした。それでも時間が経つにつれて、みんなも中国語で話せるようになり、仲良くなっていきました。

台湾の食事は、留学当初は遠慮したり、食べ慣れないものがあつたりということもあり、最初の1~2ヵ月で8キロも痩せてしまいました。ホストファミリーには心配をかけましたが、慣れてくるとたくさん食べられるよ

うになり、今は日本にいた時と同じくらいの体重に戻りました。

思い返せば、留学生活は本当に楽しいことばかりでした。この1年間は絶対に忘れません。今すぐにでも、台湾に行きたい気持ちです。僕は、台湾が大好きです。

この貴重な1年を支えてくださった斗南ロータリーの皆さん、寒河江ロータリーの皆さん、2800地区の青少年交換委員会の皆さん、そして家族に心から感謝します。本当にありがとうございました。



という話になり、当委員会としても取り組んでみようと考えています。

一夜明けた7月2日、我々3人は仲良く連れ立って、全国青少年交換委員長会議の会場へ向かいました。朝から暑い日でしたが、会場入り口で近藤真道アドバイザーが深く礼をして出席者を出迎えてくれたのには、本当に頭の下がる思いでした。当日は、当地区の小松栄一RIJYEC研修委員も出席されており、笑顔で励ましてくださいました。

会場では、各地区からの報告や提案、質疑応答など、A～Gに分かれてのグループディスカッション形式で会議が行われました。全国的にはショートステイによる派遣留学を実施している地区もあり、参考になりました。また、予算やホームステイの確保など、各地区で共通する問題点も多くあり、今後も情報を共有していく重要性を感じたところです。

当地区では、ガバナー月信7月号で早々に紹介された派遣学生4名、来日学生4名が決まっています。彼らをしっかりフォローしながら、立派に成長した1年後の姿を楽しみにしたいと思います。地区内ロータリアンの皆様からのご理解とご支援を、心からお願い申し上げます。

青少年交換・学友コーナー



青少年交換・学友小委員会 委員長
今関 勝見 (鶴岡西RC)

2017年7月1日、いよいよ鈴木一作ガバナー年度がスタートしました。実は、そのスタートの日の夕方には、鈴木ガバナー、青少年奉仕委員長の遠藤伸一氏、そして私の3人は、東京の品川にいました。そして、全国青少年交換委員長会議の顔合わせ懇親会に出席し、各地区の青少年交換委員長やRIJYEC（特定非営利活動法人国際ロータリー日本青少年交換委員会）関係者と名刺交換をしました。私は、遠藤委員長の後任として少しでも各地区の話聞いて参考にしたいと考えておりましたので、有意義な時間を過ごすことができました。

その後、懇親会場を出て品川の街へ繰り出し、2520地区と2530地区の青少年交換委員長とさらに懇親を深めました。毎年、この2つの地区と2800地区は、青少年スプリング合同キャンプを開催しています。豊富な知識と経験をお持ちの頼もしい方々で、大変心強く思ったところです。

その方々との話の中で、「スプリング合同キャンプは派遣予定学生のためだが、来日学生のための合同セミナーもあった方がよいのではないか。来日後間もない9月頃、3地区合同のセミナーを開催できれば嬉しいね」

ガバナーの想い

7月13日（木）、ガバナー年度のスタートにあたり、山形県庁と山形新聞本社へ表敬訪問に行ってきました。そこでは、「ロータリーは奉仕団体と思われがちですが、実は、奉仕をする心と人を育てる世界的な団体なのです」と説明しました。その上で、「ロータリーは立派なロータリアンを育てるだけでなく、世界各国のロータリアンの周囲、すなわち家族、職場、同業者、地域の人々、とりわけ青少年を育てることも大切にしています」と伝えてきました。

我々は、子供たちへ何を残せばよいのでしょうか？それは、土地や財産などではありません。人としての生き方です。様々な生き方がある中で、周囲へ光をともし灯火のような生き方です。そんな思いから、今月号の表紙にあるように、寒河江ロータリークラブの有志は市内2つの小学校での絵本読み語り活動を20年に亘って続けてきました。

実は、2800地区の青少年奉仕委員会も同じ思いで活動しています。そこには、子供たちが輝くように導き、取り組み、見守り、助けながら、立派に成長していく姿を我がことのように喜ぶ大人がいるのです。自らの貴重な時間を費やし捧げ、労賃ももらえず、智恵と汗と勇気、時には身銭まで出す大人です。そんな彼らが感動のあまり流す尊く熱い涙こそ、「周囲へ光をともし灯火のような生き方」を子供たちの心に残しているのです。どうか皆さん、手を貸してください。協力してください。青少年奉仕委員会は、頑張っています。

新入会員紹介



とがし つよし
富樫 剛

所属クラブ/天童西
職業分類/電気事業
入会日/2017.7.3



さとう もりや
佐藤 守也

所属クラブ/上山
職業分類/電気器具販売
入会日/2017.7.5



いとう けんいち
伊藤 憲一

所属クラブ/尾花沢
職業分類/福祉施設 施設長
入会日/2017.7.6



さとう ただし
佐藤 匡

所属クラブ/酒田東
職業分類/電力供給
入会日/2017.7.6



さいとう のりこ
齋藤 則子

所属クラブ/米沢中央
職業分類/レストラン経営
入会日/2017.7.7



わたなべ かおる
渡部 薫

所属クラブ/米沢
職業分類/電力供給
入会日/2017.7.13



すずき そういちろう
鈴木 壮一郎

所属クラブ/米沢上杉
職業分類/特注家具建具製作
入会日/2017.7.25



かねまる
金丸 まゆ

所属クラブ/米沢上杉
職業分類/携帯電話等小売業
入会日/2017.7.25



さいとう すむむ
齋藤 晋

所属クラブ/米沢上杉
職業分類/花卉小売
入会日/2017.7.25

i

ロータリー情報のコーナー〈2〉

ロータリー情報小委員会 櫻井 忠志



古沢 丈作

戦前の日本ロータリーの思想形成の上で、ずば抜けたロータリアンは古沢丈作でしょう。

昭和3年(1928年)、中国満州の大連にロータリークラブができました。大連の中心企業は満鉄で、その初代会長は松岡洋介氏です。この大連クラブに、日清精油の大連支店長で取締役でもあった古沢丈作という若手の実業家がいまいました。彼はロータリークラブに入会できたことを大変名誉に思い、ロータリー運動の核になるものは何だろうかと勉強していたところ、1915年サンフランシスコの大会で決議された「全職業人を対象とするロータリー職業倫理訓(道徳律)」に辿りついたのです。その職業倫理訓こそロータリーの核だと確信した古沢氏は、日夜これを読んで、倫理訓の躍動する思考を自分の心に会得するに至りました。彼は、その会得したところを日本語に書き表そうと考え、五箇条からなる「ロータリーの倫理宣言」をまとめ上げ、それが昭和3年の大連ロータリー宣言となったのです。それは、「ロータリーの思考の真髄を日本語に表したらどういふものになるか」という手本でした。もともと大連クラブだけのことでしたが、たまたま米山梅吉ガバナーの目に触れ、昭和5



年の地区大会で米山ガバナーはこの大連ロータリークラブ宣言を絶賛し、古沢氏をロータリアンの鏡と称えました。こうした事情から、この大連宣言は、戦前のロータリアンのロータリー理解の手本の一つとして使われるようになったのです。元々は古風な文語調ですが、分かりやすく要約すると以下の通りです。

「①職業人である前に、道義を重んじる人であれ。②自らの事業経営に全力を傾注するのは、社会に貢献するためである。③ロータリーは、道義を無視して事業を成功させたい人の味方ではない。④事業の成功を考える前に、社会への義務を果たすことを考え、奉仕に専念せよ。⑤自分の得を考える前に、他人に与えることを考えよ。⑥最もよく奉仕する者は最も多く報われることを、疑ってはならない。⑦特別な関係を利用するなどして大儲けするのは最も恥ずべき行為である。⑧ロータリー精神に反して、ロータリーの信条を踏み外すことは、儲けるために道義を踏み外すのと同じである。」

古沢丈作氏は、その後、東京クラブに入って1952年に会長を務めた際、米山梅吉氏の遺徳を偲んで米山奨学金制度を作りました。

(参考文献:佐古亮尊・著「ロータリーの森を歩く」、第2800地区HP「ロータリーを学ぶ」)

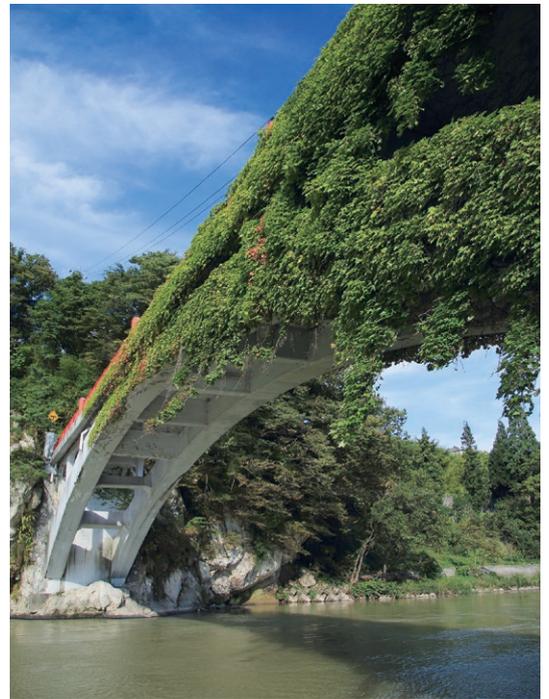
スリランカ大洪水および九州豪雨被災の義援金

ガバナー 鈴木一作

本年5月末のスリランカ大洪水被災および7月の九州豪雨被災の支援について東日本大震災等・復興支援特別委員会と協議し、第2800地区の義援金として地区災害等救援特別基金から各々30万円を送ることが決定しました。これを受けて、窓口であるスリランカ大使館と第2700地区ガバナー事務所に決定額を送金しましたので、ご報告いたします。

8月の 地区スケジュール

8/1 火	G公式訪問 (山辺) 山辺町長 表敬訪問
2 水	G公式訪問 (上山) 上市市長 表敬訪問
3 木	G公式訪問 (酒田東)
4 金	
5 土	
6 日	ローターアクト第1回会長幹事会 (G事務所)
7 月	G公式訪問 (山形西)
8 火	↑ インターアクト地区外研修 G公式訪問 (山形中央)
9 水	G公式訪問 (小国) 小国町長 表敬訪問
10 木	↓ G公式訪問 (山形北) 山形市長 表敬訪問
11 金	《山の日》
12 土	
13 日	
14 月	
15 火	
16 水	
17 木	G公式訪問 (白鷹) 白鷹町長 表敬訪問
18 金	G公式訪問 (山形東)
19 土	
20 日	第1回 諮問委員会
21 月	G公式訪問 (天童西)
22 火	G公式訪問 (山形南)
23 水	G公式訪問 (村山ローズ)
24 木	G公式訪問 (立川)
25 金	
26 土	感謝 in 熊本 (米山)
27 日	
28 月	G公式訪問 (鶴岡西)
29 火	
30 水	G公式訪問 (新庄・新庄あじさい・最上)
31 木	G公式訪問 (米沢)
9/1 金	G公式訪問 (酒田中央)
2 土	
3 日	
4 月	↑ GETS
5 火	↓ G公式訪問 (長井) 長井市長 表敬訪問
6 水	DTLS
7 木	G公式訪問 (鶴岡南)
8 金	G公式訪問 (天童)
9 土	山形東RC30周年記念式典
10 日	②青少年交換小委員会 (山形)

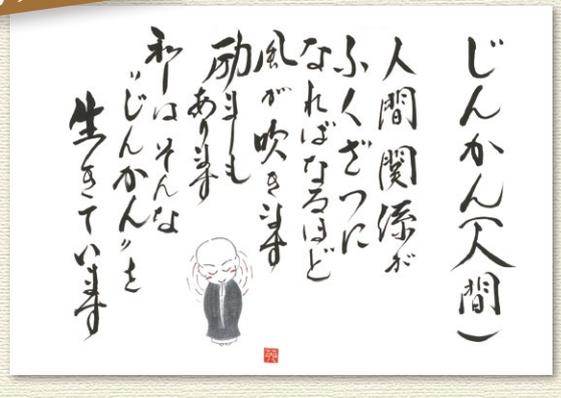


臥龍橋 (がりゅうきょう)

古刹(こさつ) 慈恩寺と寒河江市街を結ぶ道であることを示すように、臥龍橋(全長55メートル、幅6メートル)は美しいアーチ上の鮮やかな朱色の手すりに宝珠柱が設置されている。優美なアーチを描くこの橋を、風情のある成長したツタが覆っており、1937(昭和12)年に完成した。

橋の北側は岩壁の切り通しで、丁字路の慈恩寺方向には白岩隧道(ずいどう)がある。
(山形新聞記事より抜粋)

今月の言葉



◇ガバナー事務所

〒991-0041 寒河江市寒河江鷹ノ巣7番地
TEL: 0237-85-1882 FAX: 0237-85-1883
E-mail: ri2800suzuki@helen.ocn.ne.jp

◇地区事務所

〒994-0034 天童市本町2-1-31 天童セントラルホテル2F
TEL: 023-687-0208 FAX: 023-687-0209
E-mail: ri2800@muse.ocn.ne.jp

◇ホームページ

国際ロータリー山形 検索 
<http://www.rid2800.jp>

